

### 3 京浜港の経営の基本的な考え方と将来像

#### ■ 京浜港経営の基本的な考え方と将来像

- ◆ 京浜港が、我が国を代表する港湾として「国際競争力を強化」し、「利用者から選択される港湾」を実現するため、次の方向性に基づき、三港での連携を強化し、利用者のニーズに即応した港湾経営を進めていきます。

#### 経営感覚の追求

利用者ニーズに応えた  
効率的な港湾運営

#### 港湾管理者を中心とした港湾経営

大都市の一部としての港湾経営と、  
長年の経験・実績によるノウハウを活用

#### 一体的な経営

経営の一体化による  
スケールメリットを発揮

流通・商業活動を支える港湾としての機能を強化していくとともに、  
引き続き、総合港湾としての機能を維持し、  
我が国産業の活性化、住民生活の安定性を確保します。

#### 【京浜港の目指す姿（将来像）】

我が国最大の総合港湾として、エネルギー供給や生産、流通商業活動を支える物資の供給など多様な要請に応えながら、「環境」、「安全・安心」、「サービス」において、世界トップレベルの港湾を目指し、コンテナ物流に関しては日本のハブポートであるとともに、北米航路における東アジアの国際ハブポートとなる。

#### 【コンテナ物流面における3つのターゲット】

##### ターゲットⅠ 東日本のメインポート機能の維持

首都圏を始めとする京浜港の現在の背後圏の貨物を確実に保持します。

##### ターゲットⅡ 釜山港等に対峙する日本のハブポートの実現

国内最大の港湾として、日本へ寄港する基幹航路を維持し、我が国を代表する日本のハブポートを目指します。

##### ターゲットⅢ 東アジアの国際ハブポートの形成

北米航路のファーストポート、ラストポートに位置する地理的優位性を活かし、東アジアの国際ハブポートを目指します。

## 4 京浜港の将来像の実現に向けた基本戦略

### ■ 貨物集荷策、港湾機能向上策の展開

- ◆ コンテナ物流面においては、3つのターゲットの実現を目指し、基幹航路の寄港維持・拡大に必要な貨物集荷策を推進するとともに、総合港湾としての機能向上策を展開していきます。

#### 港湾利用コストの低減

利用者の意見や要望を踏まえ、規模の利益や効率性を追求し、コスト低減策を実施します。

##### 取組例

- **国際トランシップ貨物及びローカル貨物の集荷に向けた優遇策拡充**  
インセンティブ制度について、京浜港での一元的な適用や内容の充実を図ります。
- **タグボート基地の効率的な配置による港湾利用コスト低減**  
タグボート基地を効率的に配置し、コスト低減を図ります。



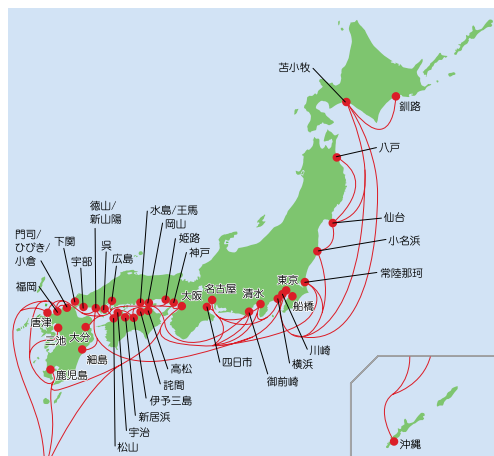
タグボート基地

#### 国内貨物輸送網の充実強化

国内貨物輸送ネットワークを強化し、輸送コストの低減や輸送効率の改善を図っていきます。

##### 取組例

- **国内各港との連携強化等**  
内航フィーダー輸送の拡大を図るため、国内各港と連携し、入港料や施設使用料の相互減免などを実施します。
- **鉄道輸送促進のための環境整備**  
鉄道輸送を利用したコンテナ貨物のターミナル優先入場等、優遇策を導入し、利用促進を図ります。
- **3環状道路等や国道357号の整備促進の要請**  
事業中・未整備区間について、国に対し整備促進を働きかけます。



内航海運の航路と寄港地

#### 利用者に選択される港湾の実現に向けた使いやすい港づくり

三港の一体化に伴うネットワークの強化や港湾機能、ロジスティクス機能の向上を図っていきます。

##### 取組例

- **コンテナバージを利用した湾内輸送の拡充・強化**  
バージ施設等の整備（定係地等）や優遇策の導入を図るなど、コンテナバージを利用しやすい環境を構築します。
- **コンテナターミナル前の混雑の緩和**  
道路状況の情報提供を充実するとともに、ターミナル事業者と共同で混雑緩和に向け取り組みます。
- **港湾諸手続きの一元化に向けた対応、京浜港統計の発信**  
三港共同で、次世代シングルウィンドウへの早期対応や共同ポータルサイトの設置、分かりやすい京浜港統計の発信等を行っていきます。
- **共同バンパールの設置**  
物流の効率化を図っていくため、京浜港内における空コンテナ調節基地としての共同バンパールを設置します。



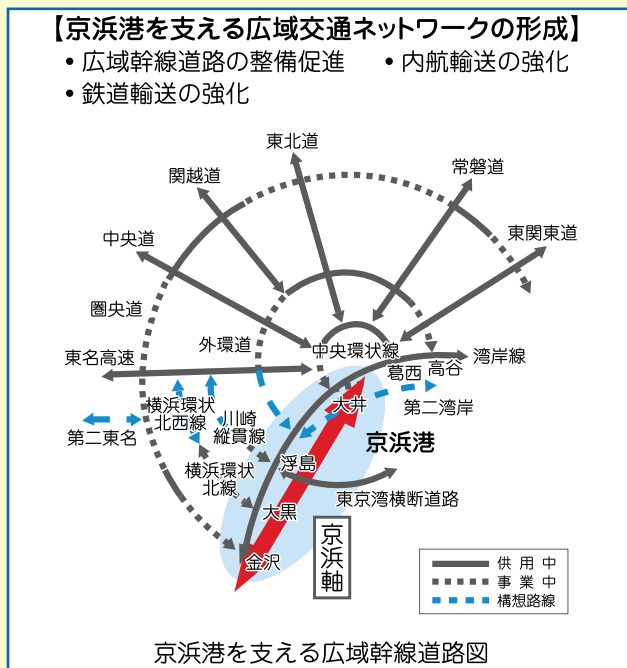
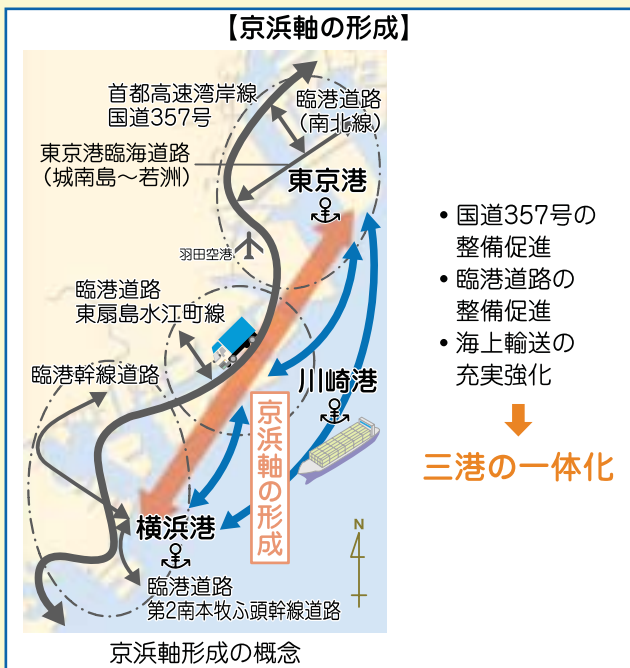
道路混雑情報提供用ライブカメラ



- 

## 空間計画の基本的な考え方

交通基盤の整備など港内輸送網の充実により京浜軸を形成し、三港を一体化するとともに、背後圏とのアクセスを強化する広域交通ネットワークを形成します。



## 施設及び機能の配置の方向性

既存施設の有効活用や、新たな空間開発を視野に入れ京浜港がより一層使いやすい港となるよう、適切に配置します。

- ・物流機能
  - ➡大水深・高規格コンテナバース及び在来貨物バースを適正配置
  - ➡コンテナ関連施設はターミナルに隣接配置
  - ➡航空貨物関連施設への対応
- ・エネルギー・生産機能
  - ➡民間事業者の活動の場であり、現在の位置を基本とする
- ・都市・環境・防災機能への適切な対応

## 既存施設の有効活用の方角性

多様かつ高機能な港湾施設が集積しているため、  
既存施設の有効活用を重視

- 補強や改良等による機能強化
- 利用・機能転換による利便性向上

## 新たな開発空間確保の方向性

- 機能更新の機会を捉えた創出
- 京浜港の前面海域の埋立などによる創出

